

蒸気機関車「9 6 6 7号機」の解体を進めます

蒸気機関車9 6 6 7号機は、約5 6年間にわたる客車・貨物列車としての役目を終え、昭和4 7年から教育等の展示資料として高浜スポーツ広場に設置されてきました。

以降、高萩市内・市外の多くの皆様の目に触れ、シンボリックな存在として親しまれてきましたが、車両の著しい老朽化に加え、車両部材へのアスベスト含有が確認されたことなどから、「安全・安心を最優先とした対応」および「限られた財源による行政課題への対応」の観点から、車両の解体を進めることといたしました。

これまで蒸気機関車9 6 6 7号機をご愛好くださった皆様へ深く感謝申し上げます。本件について御意見等がある場合には、メールもしくはFAX等にてご提出ください。

- 募集期間 令和8年10月18日（日）まで
- 提出方法 メールの場合：kan-syou@city.takahagi.lg.jp
FAXの場合：0293-24-0006
郵便・直接 ：〒318-8511 高萩市本町 1-100-1 観光商工課内
- 提出様式 提出様式にご記入いただき、「お名前・ご住所」は必ず記載ください
- その他 ご意見頂いた方への個別の回答はいたしません。ご意見に対する市の考え方は公表いたします。
※名前、住所の記載が無いご質問については回答いたしません。

<蒸気機関車 9 6 6 7 号機 解体方針に至る経過>

◇9667 号機は、大正 4 年に製造される。

以降、昭和 4 6 年に廃車となるまで（約 5 6 年間）、客車・貨物列車として運行。

↓

◇市は、昭和 4 7 年に日本国有鉄道（現 J R 東日本）と無償による車両貸借契約を締結。車両は、教育等を目的とした展示資料として、高浜スポーツ広場に設置される。

～以降、任意団体による維持管理の協力を得ながら展示していく～

↓

◇令和 7 年、経年劣化等による車両損傷が著しいことから、市は、安全性の確保を目的に化学分析調査を実施。調査の結果、火室部分からアスベスト含有が確認される。

↓

◇市は、車両の「維持補修」・「解体撤去」の両面から検討を進め、以下の理由から解体撤去とする方針とした。

車両の補修維持するためには、解体撤去と比べて多額の費用を要する

- ・車両の化学分析調査（展示車両からサンプリング採取）を実施したところ、火室部外断熱材にてアスベスト含有が検出された。引き続き車両を展示していくためには、安全性を確保するためアスベストの除去を含んだ大掛かりな修繕をしなければならない。
- ・車両の修繕とは別に、展示に伴う車両劣化がしにくい保存環境の整備や、将来にわたる維持補修（ランニングコスト）も必要となる。
- ・他自治体での事例を参考にすると、車両の修繕費は、解体費と比較して数倍を要すると見込まれ、多額の費用を要することが想定される。

※R8.9 補正 解体費予算 11,305 千円

優先的に取り組むべき行政課題へ、限られた予算を振り向ける必要がある

- ・人口減少や少子高齢化等により様々な行政課題を抱えている中、限られた予算（財源）優先的に取り組むべき行政課題に振り向け、選択と集中による持続可能な行財政運営に取り組まなければならない。

↓

◇令和 8 年 9 月 車両の解体経費を予算化。速やかな解体に向けて進めていく。

※所有者である J R 東日本から車両の譲渡を受け、市において車両を解体を進める